



三鷹の森ジブリ美術館ライブラリー提供作品

チェブラーシカ

Чебурашка

ロシア史上、最も愛される人形童話。



監督 ロマン・カチャーノフ

原作:エドゥアルド・ウスペンスキー 脚本:エドゥアルド・ウスペンスキー/ロマン・カチャーノフ 美術:レオニード・シュワルツマン 音楽:ウラジーミル・シャインスキー/ミハエル・シフ 制作:サユースムリトフィルム
日本語版翻訳:児島宏子 提供:三鷹の森ジブリ美術館/スタジオジブリ/日本テレビ/ティズニー/フロンティアワークス 特別協賛:日清製粉グループ 配給:三鷹の森ジブリ美術館 © Cheburashka Project

Director:R.Kachanov Written by:E.Uspensky Screenplay:E.Uspensky/R.Kachanov Artistic Director:L.Shvartsman Composer:V.Shainsky/M.Ziv Production:Soyuzmultfilms studio

www.ghibli-museum.jp/cheb/

デジタルリマスター版



この街には、いったい
どれくらいいるんだろう。
ひとりぼっちの人が。

動物園の孤独なワニに会いにきたのは、
都会の隙間の電話ボックスに暮らす、
心やさしい“チェブラーシカばったり倒れ屋さん”だった——。

ロシア史上、最も愛される人形童話「チェブラーシカ」全四話完全<デジタルリマスター>版、堂々劇場公開!

オレンジの木箱に閉じ込められて、遠い南の国からやってきた、大きな耳の小さいいきもの。起こしてもすぐに倒れてしまうので「チェブラーシカ(ばったりたおれ屋さん)」と名づけられたこの正体不明のいきものは、動物園にも受け入れを拒否され、都会の片隅の電話ボックスで暮らしていた。そんな彼が出会ったのは、動物園で働く、一人暮らしの孤独なワニ・ゲーナだった。

「この街には、いったいどれくらいいるんだろう。ひとりぼっちの人が
ふたりの優しさが今、この街に、ささやかな幸せを生み出してゆく——。

詩情ゆたかな童話的世界を舞台に、動きの細部にまで人間の心をそそぎ込まれた人形たちが、愉快に働き、喜びをわかち合い、哀しみにふれ、無責任さに怒る。

一見無邪気なエピソードに惹き付けられる一方で、描かれるのは現代にも通じる社会のひずみ。公開から約40年たった今もなお、ますます人々を魅了するこの古典的名作には、“かわいい”だけで終わらせることのできない、時代と国境を越えた生命力が満ちている。

人間が手で描くことにこだわった宮崎駿監督最新作「崖の上のポニョ」と、人間の手作りだけが生み出した、ロシア史上、最も愛される人形童話「チェブラーシカ」、2008年夏、スタジオジブリとジブリ美術館は、人の手による2本の映画を日本に贈る。

人形アニメーションの巨匠ロマン・カチャーノフの元に、ロシアの天才・鬼才が集結した。

「ミトン」(67)、「レター」(70)、「ママ」(72)など、人形アニメーションの世界的名作を生み出した巨匠ロマン・カチャーノフを中心に、ロシアの天才・鬼才が集結して制作された「チェブラーシカ」は、1969年から83年にかけて全四話が公開されて以降、ロシアでは知らぬ者がいないほどの絶大な人気を誇る国民的映画となった。その人気は世界中に飛び火し、日本においても2001年に渋谷のミニシアターで公開され、子どもから大人まで数多くのファンを生んだ。

また、チェブラーシカは、2008年の北京オリンピックにおいて、ロシアチームの公式マスコットにもなっている。



チェブラーシカ

Чебурашка

| 1969年 1971年 1974年 1983年 | ロシア | 73分 |
| デジタルリマスター | スタンダード | © Cheburashka Project




